



## THE対談

坂本カオリ×酒向れいな×村瀬まさや

～二人とも期待の星です！  
スタッツの新人先生を紹介！～

対談した日は3月26日。3日間続いたスプリングワークを終えて、「ふう」と腰を下ろしてからの対談開始。髪の毛や服に枯れ草をつけた状態の私たち、随分日に焼けました。そして対談が始まったのですが…。

**坂本** 今回はスタッツ期待の新人先生をご紹介します。と、言うことで…まずはスプリングワークお疲れ様でした！

**酒向&村瀬** お疲れ様でした！（良い笑顔）

**坂本** いやあ、疲れたね～。

**酒向&村瀬** はい、でも凄く楽しかったです。

3人で顔を見合わせてニッコリ。今回「新人先生を紹介」と銘打ったものの、ここに就職するまでの履歴が少し変わっています。センターの生徒としてここに来て、学生スタッフとして4年間活躍し、この春センター就職。センターの事をよく知っている先生です。

**坂本** じゃあ、まずは自己紹介をお願いします。

**酒向** 酒向れいなです。スタッツの2才児クラスで、オレンジさんの担任になりました。

**村瀬** 村瀬まさやです。スタッツの2才児クラスで、赤ぼうしさんの担任になりました。

**坂本** お二人ともセンター出身ということで…いつから通っていたの？

**村瀬** 僕は、中学生からです。

**酒向** 私は、小学生からです。

**坂本** ほお…。それで、いつぐらいから、子どもと関わる仕事がしたいと思ったの？

**村瀬** 自分は大学生の時に、現場で子どもと関わる場所はないかなと考えていました。そんな時妹が名教に通っていて、担当していた西川先生から「Do曜塾の学生スタッフとして働いてみないか」と声をかけていただいたんです。

**酒向** 私は名教に通っている時に、母が「わあー」とやっているのを見て、何をやっているのかなと思い、そこから興味を持ちました。（ちなみに、れいな先生のお母様は、スタッツやぼうけん教室で活躍しているあやこ先生です）

**坂本** わあーとね。（笑）いつも元気なあやこ先生らしいね。

**酒向** そして私が高校生になった時、「ちょっとお手伝いしてみない？」と声をかけられ手伝っていくうちに、どっぷりとはまってしまいました。

10年以上、センターと縁を繋いでくれて、そして指導者として新しいスタートを切る。センターにとって、とても頼もしい存在の2人です。

ちなみに、わたくしが2人と一緒にお仕事をする様になったのは2年前。Do曜塾の教室を一緒に担当しました。若さと躍動感、そしてどの世代の職員とも十分な信頼関係を築くことができる彼らに、とても助けてもらいました。

まさや先生は、大きな体格と優しい笑顔がとってもチャーミング。幼い子は大きな体の大人を見ると、恐怖を感じることもあります。ですが、まさや先生はどんなに幼い子でもいつの間にか心を開かせることができる人。お話をするとすぐにわかるのですが、彼はとても優しいのです。

そして、れいな先生。あやこ先生の背中を見て育ち、自分も同じ道を選びました。とても几帳面で丁寧な仕事をします。2年前、当時の生徒達に向けて作った手作りのプレゼント、どんぐりのネックレスを作ったのですが、とても丁寧に時間をかけて作りました。子ども達が喜ぶのなら、自然の魅力を伝えられるのなら、と時間を惜しまない姿勢にとっても感心したのを覚えています。ちなみに、そのネックレスを私も頂きまして、時々首にかけているのですが、初対面の小さな子は、そのネックレスを見た瞬間に心を開いてくれます。れいな先生の手作りの温かさが、ちゃんと心に伝わるのです。

2人の良さを最大限に活かせる様、心をこめて育てていきたいと思います。センター会員の皆様、若い2人を、応援どうぞ宜しくお願い致します。



カオリ先生、れいな先生、まさや先生

## かあ先生が 子どもの「今」を見つめる

大きい子も小さい子も一緒に育つ。  
縦割り保育って、良いなあ。



スタンプ新学期が始まりました。この春から、沢山のお子様が新しくスタンプに入会しました。2才になったばかりの子もいれば、年長さんの子もいます。年齢に関係なく、どの子もみんな、「はじめのいっぽ」。ドキドキしても、泣けちゃっても、笑っても、何でも良い。とにかく、朝のスクールバスに一人で乗る事ができたら、思いっきり褒めてあげよう。いっぱい抱きしめてあげよう。そう、先生達と想いを確認して迎えたスタンプ初日。

バスが到着するなり、思いっきり仰け反って号泣する子、緊張して表情がこわばっている子、自分から進んでバスに乗り込む子…どの子も心から、今起きている出来事を体験していました。先生達も一人一人の思いを受け止めようと一生懸命です。そんな中、「ああ、素敵だなあ」と感動する出来事が何度もありました。その出来事の全ては、子ども達が自分で考えて、誰かの為に行動した事です。いつもなら、同じ学年の友達同士で遊ぶ子達が、はじめてバスに乗ってきた子のことを気遣います。ママに会いたいと大声で泣く子には、思いっきり泣かせてくれます。「うるさい」と言いません。「アンパンマンの手遊びでも、する？」と、素敵な案を出してくれた子もいます。大きい子達の優しさは、泣き声でいっぱいだったバスの雰囲気、じわじわと和らげてくれます。

ちなみに、4月6日から4日間。スタンプは、「バス活動」と言う縦割り保育を行いました。クラス活動ではなく、スクールバスに乗る子ども達と一緒に遊びます。この春からスタンプに通う子もいれば、進級した子もいます。そんな異なる年齢の集団ですが、この4日間で子ども達の心が大きく成長します。いつもなら、ママやパパに抱っこしてもらっていた子が、大きい子達と手を繋いで歩く姿。元気良く、野原を走り回っていた年少児さんが、摘んできた1輪のタンポポを小さな子に渡そうとする姿。数え切れない程、素敵な姿を見せてもらいました。全ての子ども達に感謝です。そして、笑顔で送り出してくださった保護者様にも、本当に感謝の思いです。遊びや生活を共に経験することで、異なる年齢の子ども達と一緒に学び育つ。この縦割り保育は、今後も定期的に行いたいと思います。

## 和田 が遊びで育む ココロとカラダ



2021年度も大自然を舞台に様々な活動を繰り広げていきます。  
1年間どうぞ宜しくお願い致します。

### 【寄り添う】

新年度の始まりは期待と不安が交錯し、どきどき、ウキウキ、わくわく、ソワソワと、心が落ち着かない場面が出てくるのではないのでしょうか。

子どもよりも経験豊富な大人は先のこと、結果が気になってしまい、目の前の事にも目を向けているつもりでも、見落としてしまう事があるかもしれませんね。子ども達はそれぞれの目標や欲求があり、それを満たそうと素直に行動をする姿が見られます。大人から見れば、遠回り、面倒だなと感じる事も子ども達にとっては大切な取り組み。自分で考え、思いのままに行動、体験をすることで様々な経験を積むことができます。それが意欲、向上心が高まるきっかけになることもあります。

大人が目に見えてわかる結果を求めてしまう気持ちは、正直なところでもあると思います。大人が目標とする結果を求めすぎて、子どもにプレッシャーを与えてしまう事が、求める結果への遠回りになることもあります。子ども達も自分なりに考え、取り組み、実践をしています。どんな思いで、どんな取り組み方をしようとしているのかを共有し、任せる。子どもを信じ、激励しながら支える。スピード感には欠けてしまうかもしれませんが、それでも、自分で考えた事が、大人に認められて、出来た。という経験が大きな財産になり、自尊心を持ち、自己肯定感が生まれ、自主性が高まっていくことでしょう。「ボクは、やれば出来る。」「ワタシ、こんなことがやってみたい。」という気持ちを抱き、行動が出来ると良いですね。

成果に対して喜びを表現・共有をするのはもちろん。プロセスにも目を向けてじっくりと寄り添い、共に考えられる場面が増えたと、先の不安よりもプロセスを楽しむ時間が増えてくるのかもしれないですね。結果よりもプロセスを大切に、共に考え、取り組んでみると想像以上の結果が表れるかもしれませんよ。

## 椀木が 思う！

### 「遊び」と「学び」は一对！



今年度より小学生のプログラムがリニューアルし、今まで以上に文化センター全体としての「遊び」と「学び」の幅が広がりました。

「遊び」と「学び」は一見正反対のように捉えられがちですが、そんなことはなく、むしろ「遊び」の中に「学び」があり、「学び」の中に「遊び」があるのではないかと思います。遊びの本質は「楽しむこと」。自由な環境の中で、子どもたちは時間を忘れ、時には周りの声が聞こえなくなるぐらい遊びに没頭します。その瞬間子どもたちは遊びの楽しさや、おもしろさに夢になっています。

そしてその遊びの中で、「もっとこうしたい」と理想に近づくように、常に想像力を働かせています。時にはこちらも驚くような発想を見せてくれることも。まさに子どもたちは遊びと発想の天才です。遊びを通して培った、「想像力」や「主体性」は学びの力に直結します。

また個の力だけではなく、集団でのコミュニケーションを学べるのも遊びの魅力です。周りの友だちや、初めて会う子と遊ぶ場面では、集団での個のあり方が求められます。自分一人が楽しければいいというわけではなく、周りと一緒にになって楽しむ力、乗り越える力は学年を問わず求められる力です。社会に出てからも、リーダーシップや共感性が問われますが、案外子どもの頃の遊びから得られた経験が、将来大人になった時、人としての魅力や力になっているのではないのでしょうか。

以上のような「遊びからしか得られない学び」は他にもたくさんあります。子どもたちは遊びに夢になることで、主体的に学ぶ姿勢が身につく、それは学習にも生きてきます。「遊び」と「学び」は対極ではなく、遊びと学びの掛け算で子どもたちはものすごいスピードで成長していきます。

「遊び」を通して「学び」の土台を作り、学ぶ力が、将来的に子どもたちの武器になるような教育を目指しています。

## 川合がお届けする

### 「センター」×「わくわく」＝？



名古屋教育文化センターは、2021年も皆様にたくさんのわくわくをお届けしていこうと思います！これまでのセンターの良さはもちろん継続していけるように。さらに「情熱と誠意で育て続けます」という精神の元、現在センターに通う子どもたちにとって、より良い場、楽しい場、そして何より年齢問わず「わくわく」できる場を作っていこうと思います。

4月より新年度を迎えた各教室からも、新たなわくわくをお届けするプログラムも開講しています！

まずは、自分自身も担当している「スタンプ小学校」。今年度からは、主に平日プログラムがパワーアップ！外で遊ぶ時間が圧倒的に減った現代の小学生に、野外あそびの魅力をつぶりお届けする「くろぼうし」。スタンプやスタンプ小学校でこれまでに見つけた「好き」をさらに追及し、Youtubeという場で全国へ発信する。そして発信するまでの過程でアイデアを出し、他人に伝わるようなかたちを試行錯誤し、自らの表現で発信する「スタTube」。日曜のプログラムも野外あそびや自転車企画、探求教室も新たにスタートします！

そして、わくわくプログラムといえば幼児対象の「やどうぼうし」です！毎週金曜日の夕方&年間数回の合宿を行うプログラム。合宿でしか味わうことのできない発見や、学びが詰まっています。何より自分自身の好きが詰まったプログラム。大人である私たちが「わくわく」しながら子どもたちと関わり、その中で子どもたちにも思いが伝わり、自然と成長する。そんな場を提供できるのがセンターの良さであり、自分自身の想いでもあります。

今後もそんなセンター職員「わくわく」を、たいようにてお伝えしていこうと思います！  
大人もわくわくする。そんな気持ち忘れてはいけませんね！